

【資料紹介】

The Open University 機関紙/誌 ‘Sesame’ (1972~2011) を読む

ジョン ハンモ

On the Bulletin ‘Sesame’, The Open University, 1972~2011

JEONG, Hanmo

1 はじめに

本稿は、英国オープン・ユニバーシティ（以下、OU）の機関紙/誌 *Sesame* の概要を紹介し、それが英国における高等教育政策の変化と OU と同じく主にメディアを通して教育活動を行っている大学において、いかなる史的価値を有しているのかを明らかにするものである。

1960 年代、英国では労働市場の変化に伴い、高等教育分野の拡大がなされていた。しかし、キャンパスに通い、講義を聴かねばならないという既存の伝統的な教育方法では、既に学校から離れ、職場や家庭を有している国民たちにまで教育の機会を提供するには限界があった。ゆえに、学生たちが、ラジオ、テレビを通して、自主的に学習を行い、大学側はその学習をサポートする新しい方式の大学が構想された。また、できるだけ多くの国民に教育の機会を提供するため、入学試験など、入学資格を求めないことにした。この革新的な大学の名前は「放送大学 (The University of the Air)」であった。以後、大学名を、メディアの活用を強調した「放送」より、皆に「開かれた」大学という大学の哲学に重きを置いたオープン・ユニバーシティに変更し、1969 年にはついに大学が設立された。設立から約 50 年が経った現在、OU は 16 万人の学生が在籍し、大学に対する満足度の面でケンブリッジ大学やオクスフォード大学など、英国国内の名門大学と肩を並べる世界有数の大学にまで成長した。

Sesame は、OU が初めて新入生を受け入れた年の 1 年後の 1972 年に創刊され、2011 年に廃刊されるまでの 40 年間、OU の構成員たちの窓口の役割を果たした紙媒体である。*Sesame* は 248 号まで刊行され、1972 年から 2004 年までは新聞形式であったが、2004/5 年度からは雑誌形式に変更された。59, 60 号は OU が 10 周年を迎えたことを記念し、*The First Ten Years* という冊子に代替され、廃刊される 3 年前の 2008 年から 2011 年までは *Welcome to Sesame* が 3 回刊行された。*Welcome to Sesame* は、過去の記事で構成されたものであった。これらは公式的な号としては数えられなかった。刊行時期は随時変わり、最初は毎月もしくは隔月に刊行されていたが、2004/5 年度から廃刊されるまでは季刊となった。

本紙/誌の構成やコーナーの名称は常に変更されたが、その機能は基本的に情報伝達（学

内/学外)、大学の構成員間のコミュニケーションであったといえる。情報伝達の例としては、学内の方針の変更、大学に関わる国の政策の変更、学内で行われている研究の紹介、新しいコース¹の紹介、各コースの合格率などであった。大学の構成員間のコミュニケーションの例としては、教職員及び学生の投稿コーナー、大学や国の政策を議題とするディスカッションコーナー、教材や電子機器などの中古取引コーナー、集い（勉強会、クラブ活動など）及び行事（卒業式、オープンキャンパスなど）の案内コーナーなどを挙げることができる。

2 Sesame の史料的価値

Sesame が史料的価値を有するとみられる理由は次の通りである。まず、英国内の高等教育政策における変化を把握することができる点である。OU は、高等教育分野の拡大が積極的に進められていた 1960 年代の労働党政権下に設立され、以後、保守党が政権を握るたびに、補助金の削減に起因する 3 度の危機を経験した（ジョン、2017）。Sesame が刊行された 1972 年から 2011 年は、これらの危機があった時期を含む。したがって、Sesame を通して、当時の高等教育政策の変化とこれに対する OU 内部の反応について把握することができる。

つぎに、OU のように、メディアを通して高等教育を提供している教育機関において、いかなるメディアが活用されてきたか、という変遷について理解することができる。OU は設立期から、ラジオとテレビを活用した学習経験の提供をメインとしてきた大学であり、以後も新しいメディアを積極的に導入してきた。今まで OU に導入されてきたメディアは大別して、マスメディア（ラジオ・テレビ）、パーソナルメディア（ビデオテープ・CD・コンピューター）、知識メディア（インターネット）の 3 つに分けることができる（ジョン、2017）。こうしたメディアの変遷は、OU と類似した方法で教育や学習者支援を提供している他の教育機関とも、効果的な教育を可能にするツールやテクノロジーの開発を目的とする教育工学とも、密接な関係がある。

以下、Sesame の本文を引用しながら、これら 2 つの史料的価値を裏付けることを試みる。

3 英国における高等教育政策の変化

ジョン（2017）は、英国の高等教育政策が、労働党と保守党のどちらの党が集権（選挙で勝利）したかに左右されてきたこと、そして OU など英国の大学に大きな影響を及ぼしてきたことを指摘した。その顕著な例は、主に保守党政権下でなされた補助金の削減であった。かつて OU の収入の大半は国の補助金であったが、補助金の削減はすぐに学費の値上げにつながった。そして、学費の値上げは、学生数の減少の直接的な原因になった。OU の学生の多くは、学業と並行して職業や家庭を持っており、学費の値上げに敏感だったためである。補助金の削減は学費の値上げに、学費の値上げは学生数の減少につながり、結果的には大学の収入が大きく減少し、大学の存続を脅かすという悪循環が続いた。OU が設

立されて以来、保守党への政権交代は 3 回なされたが、これは OU に 3 回の危機があったことを意味する。Sesame が刊行された時期は、これら全ての危機が生じた時期と重なる。したがって、同紙/誌の記事から当時の状況を把握することは、難しいことではないのである。

危機の中でも最も際立つのは、保守党が集権し、マーガレット・サッチャーが総理大臣を務めた 1979 年から 1990 年の間である。58 号 (1979 年 5/6 月) のヘッドラインニュース「さらに絞められた OU の財布の紐」²では、OU があげていた収入の一部を政府に収めることになったため、年に£90 万の赤字が予想されるようになった点を扱った。59 号 (1979 年 7/8 月) のヘッドラインニュースは「OU が絶望的な財政的展望に直面する」³であった。本来、1979 年度の予算は£3,300 万に予想されていたが、政府が補助金を削減したため、急に£100 万の支出を年末まで削減する必要が生じたのである。また、政府の補助金には、これから値上げされる消費税と給与が反映されていなかったため、財政状況がさらに悪化することが予想された。

補助金の削減は結局、学費の値上げの原因となった。61 号 (1979 年 10/11 月) のヘッドラインニュース「マーガレットの予算削減が悪影響を及ぼし、学費が£69 まで値上げ、教員は減縮」⁴では、1980 年から OU のフル単位コース (Full credit course) にかかる費用が、既存の£55 から£67 まで値上げされることを扱うものであった。インフレーションの影響で教材費、交通費、郵便料金などが値上げされたことまで考慮すると、学生によっては学習にかかる費用がたった 1 年で 50%も値上がりしたことになる。以後、69 号 (1980 年 12 月) 「政府が支援を減らすために、学費の値上げを強制した」⁵、85 号 (1983 年 1/2 月) 「1983 年には£350 万 (の補助金) が削減」⁶、87 号 (1983 年 7/8 月) 「予算削減は (新しい) コースの制作を遅くする」⁷、88 号 (1983 年 9/10 月) 「また、予算から£100 万が削減」⁸などからも、政府の高等教育政策の基調とこれに伴う OU の危機意識を窺うことができる。こうした論調の記事は、OU への支援が増え始めた 1980 年代末まで持続された。

4 高等教育に活用されてきたメディアの変遷

OU は、1960 年代からメディアを通して高等教育を提供する教育機関であったがゆえに、現在に至るまで様々なメディアを導入し続けてきた。これは、単に OU という一大学の変遷というだけではなく、OU のようにメディアを通して教育を提供してきた大学が、いかなる過程を経て現在に至ったのかを知る手がかりとなるものでもある。OU が活用してきたメディアの変遷を大きく捉えると、マスメディア (ラジオ、テレビ)、パーソナルメディア (ビデオテープ、CD、コンピューター)、知識メディア (インターネット) という順序で推移してきたことがわかる。以下では、Sesame の記事を通して、こうした変遷の裏付けを試みる。

従来、OU の教育はラジオやテレビのようなマスメディアを中心に行われていたが、ついにパーソナルメディアが導入されたのは、1973 年のことであった。Vol. 2、1 号 (1973 年 1 月) の「5 つの (スタディ・) センターには新しいカセット (ビデオテープ) がある」⁹と題する記事では、スタディ・センター 5 ヶ所にビデオレコーダー (VCR) 及びビデオテープ

が導入され、OU にもついにビデオテープが導入されたと報じられている。ここでいうスタディ・センターとは、OU が学習をサポートするために、英国の各地域に設けた拠点である。スタディ・センターには、教員がテュートリアルを行う講義室、学習に必要な設備及び資料が備えられていた。Vol6、3 号（1977 年 4/5 月）「今度は、TV テープ（ビデオテープ）を（スタディ・）センターに配置する予定」¹⁰では、VCR 及びビデオテープを備えたスタディ・センターを 35 ヶ所に拡大する予定であることが発表されている。

1981 年以降は、パーソナルメディアが本格的に、従来のマスメディアを代替するようになった。71 号（1981 年 3/4 月）「テレビをより減らし、AV をより増やす計画」¹¹という記事を通して OU は、テレビを中心に提供されてきた学習資料を、ビデオテープなどパーソナルメディアを中心に提供していく方針であることを予告した。OU の講義が放送されるチャンネルの視聴率が 1974～8 年度には 63.7%を記録したのに対し、1979 年には 55.5%まで落ちたためであった。89 号（1983 年 12 月）ヘッドラインニュース「ビデオがテレビを圧迫している」¹²によれば、学生の 42%が VCR を活用できる環境にあると答えた。これは、OU で用いられている主なメディアがマスメディアからパーソナルメディアに移行していることを示す、初めての客観的な調査であった。しかし、パーソナルメディアへの移行は、パーソナルメディアの利用率自体の上昇を意味したものの、VCR などの設備を備えていた OU のスタディ・センターを利用する必要性が低下したことを意味した。97 号（1984 年 12 月）「ビデオが生き残る」¹³によれば、利用率が低いため、スタディ・センターに置かれた VCR が整理される危機に陥ったが、大学はしばらく状況を見守ることにしたと伝えた。

1980 年代末は、それ自体がパーソナルメディアでもあり、次に来る知識メディアにつながる土台ともなるコンピューターが、OU に積極的に導入された時期であった。116 号（1987 年 10/11 月）ヘッドラインニュース「39%（の学生）が自分のコンピューターを欲しがる」¹⁴によれば、今まで用いてきたメディアの以外にもコンピューターでも提供されたコースである「ホーム・コンピューティング・コース」¹⁵を申し込んだ学生の中で、39%が自分のコンピューターを買う意向があるとのことであった。また 119 号（1988 年 3/4 月）「PC ディスクで提出する初めての課題」では、ディスクで課題を提出するコースについて扱っており、136 号（1990 年 8/9 月）「スタディ・センターに PC を導入すべきか」¹⁶では、スタディ・センターに PC を設ける必要性について討論が行われた。それと同時に、大学はテレビへの依存度を減らしていった。143 号（1991 年 8/9 月）「BBC センターとともに 133 の職がなくなるかもしれない」¹⁷では、TV 用講義を制作していた学内の BBC センターがもうじき閉鎖されることを伝えた。

以後、コンピューターの普及に基づいて、知識メディアであるインターネットが導入された。163 号（1994 年 10/11 月）「CoSy（学内専用のビデオ会議システム）がインターネットに近づく」¹⁸では、インターネットについて詳細に紹介し、これから大学がインターネットの活用を拡大していく方針であるとした。この際、インターネットが持つ機能の中でも、コミュニケーション機能が強調された。176 号（1996 年 12 月）「サイバースペースで開かれたテュートリアル」¹⁹では、英国にいる教員とアメリカにいる学生が、インターネットを通してテュートリアルに参加したことが扱われた。192 号（1990 年 8/9 月）「対面式授業（テュートリアル）がコンピューターに移行することへの憂慮」²⁰では、コンピューターの活用により、多面式テュートリアルが減少することを懸念する学内構成員の声が掲載さ

れた。主な理由は、インターネット上で行われるテュートリアルが「社会的に孤立」したものであり、「OU のエトスに反する」ためであった。

インターネットが導入される 20 年前、Sesame が、対面式テュートリアルが行われるスタディ・センターについて調査を行ったことがある。これを通して、なぜ OU の構成員たちが対面式テュートリアルの減少を懸念したのかについて、手がかりを得ることができる。Vol4、4 号 (1975 年 6/7 月)「スタディ・センターを夢見る」²¹では学生たちが考える理想的なスタディ・センターに対するアンケート調査の結果が発表された。とりわけ、「私は…のような機会があれば、(テュートリアルが終わった後、) スタディ・センターに残ることを考慮する」(応答者 271 人) という質問について、80%の学生たちは「他の学生や教職員と話す機会」と答えた。この結果によれば、学生たちは、スタディ・センターの機能の中でもコミュニケーション機能を重視していたことが分かる。即ち、OU の学生たちが考える対面式テュートリアルは、一種のコミュニケーションの機会に近いものであり、192 号 (1990 年 8/9 月) の議論においても、同様の考えが働いたことが推察できる。

5 おわりに

以上、Sesame の史料的价值について論じた。これらは、OU が国の政策の変化にいかに対応してきたのかとともに、各時期において、いかなるメディアが導入され、大学はそれをどう受け入れたのかを知る手がかりを与えていることを明らかにした。これらは、今後の OU や英国の高等教育の展望を示すものであると同時に、OU と同様の教育方法を採用している大学におけるメディアの活用についても示唆を与えるものである。

例えば、高等教育政策の変遷にかかわって言えば、2010 年から再び保守党が政権を握ることになり、各大学への補助金が削減された。そのため、各大学は学費をそれ以前の 3~4 倍まで値上げせざるを得なくなったのである。これは OU にも該当するものであった。現在、学費を値上げは、入学者数の減少につながり、OU は過去に経験したような危機的な状況に直面している。この点は、OU で学ぶ殆どの学生に当たる、パートタイム学習者が学費の値上げに敏感であることを今一度示すものであり、受講者に対して別途の経済的サポートが必要であることを示唆している。

他方、OU のようにメディアを活用した教育方法を採択している大学に対しては、次の示唆を与えている。第一に、スタディ・センターのように、各地域に設けられた拠点の利用率の低下である。過去のスタディ・センターには、決まった時間にしか視聴ができない(マスメディアでの)講義を視聴できなかった学生のために、録画した講義が視聴できる施設を備えていた。しかし、VCR など、パーソナルメディアの普及とともに、スタディ・センターを訪れる必要性が減少し、これを受け、一時期、大学は VCR の整理を試みたのである。以後、コンピューターやインターネットの普及により、さらにパーソナルかつフレキシブルな学習が可能になり、スタディ・センターの必要性はさらに低下していった。第二に、対面式テュートリアルがメディア上のものに代替されることである。Sesame を通して、メディアだけでは代替することが難しいと思われていた対面式テュートリアルすら、コンピューター上、インターネット上のものに代替されるようになったことを確認できた。こう

した代替をめぐる議論は、2016 年現在にも OU の内部で激しく展開されている（ジョン、2017）。

スタディ・センターの利用率の低下や対面式テュートリアルをメディア上のものに代替するといった近年の傾向性は、OU のみに留まる問題ではない。筆者の調査によれば、OU と同様の教育方法を採択している日本の放送大学においても、OU のスタディ・センターに当たる学習センターの利用率が低下しており、OU の対面式テュートリアルに当たる「対面授業」の必修単位が、30 単位から 20 単位に縮小されている。

勿論、Sesame に示されている OU の事例が、他の国や教育機関にまで一般化できるかについては、十分な論議が必要であろうと思われる。これに関する深い考察については、別稿を期したい。

参考文献

ジョンハンモ「英国オープン・ユニバーシティにおける学習者支援の現状と展望: 'Open and Distance Learning' への示唆」、平成 28 年度京都大学大学院教育学研究科提出修士論文、未公刊、2017

-
- ¹ OU で用いられる講義の単位である。モジュール (Module) とも言われる。
 - ² Tighter grip on OU pursestrings p.1.
 - ³ OU faces a bleak financial prospect p.1.
 - ⁴ AS MAGGIE'S AXE BEGINS TO BITE Fees soar to £67-and cuts hit tuition, p.1.
 - ⁵ Whitehall force fees up to cut grant aid, p.1.
 - ⁶ Shortfall of £3.5m for 1983, p.1.
 - ⁷ Cutbacks will slow output of courses, p.1.
 - ⁸ Another £1m cut from OU budget, p.1.
 - ⁹ Five Centres will get new cassettes, p.5.
 - ¹⁰ Now they plan for tv-tapes in centres, p.1.
 - ¹¹ Plans for less TV, more AV, p.3.
 - ¹² Video is pushing up TV ratings, p.1.
 - ¹³ Videos are reprieved, p.1.
 - ¹⁴ 39% want their own computer, p.1.
 - ¹⁵ First TMAs on PC disk, p.3.
 - ¹⁶ Should PCs be put back into study centres?, p.3.
 - ¹⁷ 133 jobs my go at BBC centre, p.1.
 - ¹⁸ A CoSy approach to the internet, p.13.
 - ¹⁹ Tutorial held in cyberspace, p.5.
 - ²⁰ Fears that face-to-face tuition may suffer from move to computers, p.3.
 - ²¹ Dream study centres, p.9.